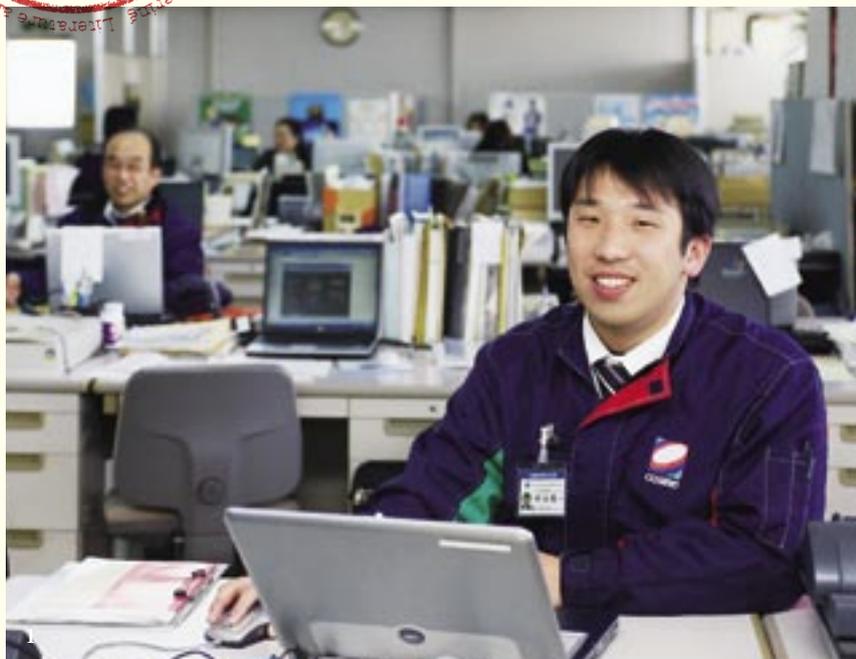


山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

一般家庭や企業回りが多いものの、お客様への資料づくりなどでデスクワークも少なくない。そのほとんどはパソコンを使っての業務だという。広々としたオフィスにはテキパキと仕事に取り組む那須さんの姿があった。

2

本社の敷地内にあるLPボンベ倉庫でのチェック風景。もちろん火気厳禁、厳しい管理体制が敷かれている。主に収容されているのは、回収されてきた空ボンベ。寒河江市にある施設でガスが充填されてお客様のもとへ。



2



3

オフィスで先輩からの指導、アドバイスを受ける那須さん。遠藤商事には山大出身の先輩も数名おり、心強く感じている。畜藤先輩(写真右)もその一人で、公私にわたっている教えられることが多いという。

自然の豊かさ、人柄にひかれて山形に就職、 仕事もプライベートもより充実させたい3年目へ。

自立の成果

那須陽一 遠藤商事株式会社 ガス住設部勤務

大学進学を決める際、自立志向の強かった那須さんは敢えて遠方の大学を希望。先生の勧めもあって山形大学工学部に入学し、機械システム工学を専攻した。はじめこそ山形の自然や四季の変化に戸惑ったものの、大学4年間ですっかりその環境に馴染み、山形県人の人柄のよさにもひかれて、そのまま山形での就職を考えるようになったという。

大学では、平成19年度の文部科学大臣表彰・科学技術賞(技術部門)を受賞した高橋先生の研究室で学び、その表彰の対象となった「点接触式固体熱物性テスターの開発」にも参加し、貴重な体験をすることができた。そんな那須さんが就職を希望した分野は、自動車整備関係かエネルギー関連。

それが幸運なことに、いずれか一方に的を絞ることなく、それらをはじめとする幅広い分野をテリトリーとする「遠藤商事」に就職することが出来たのだ。

現在、那須さんはガス住設部開発課に所属し、LPガスの新規顧客開拓のために一般家庭や企業、工場などを回っての営業活動がメインの仕事。LPガスを安全に快適にお使いいただくための保安管理やサービス全般を担っているわけだ。入社から丸2年、まだまだ学ぶべきことも多く、取得しなければならない資格も少なくない。その資格取得の際に必要な法令用語等を覚えるにあたっては、大学で学んだ物理学的考え方が大いに役に立っているという。また、大学では学業に加えて合気道部に入学して

鍛錬を積み、2段の有段者にもなった。そこで身につけた礼節やマナーが、社会人となった今、さまざまなカタチで生きていて感じている。仕事から解放される休日には、バイクでのツーリングなどで山形の豊かな大自然を満喫してリフレッシュしている。

資源確保や環境問題など、クルマやエネルギーを取り巻く環境は厳しさを増す一方。そんな厳しいビジネスシーンのまっただ中にいると言っていい那須さんが、今、もっとも関心を寄せているのが次世代を担う燃料電池自動車など。燃料電池にはLPガスが使われるものもあり、現在の那須さんが取り組んでいる仕事との接点も見えてきた。こんな時代にこそ本領を発揮、大学での学びを生かした今後の活躍に大いに期待したい。